

# プロジェクトWETエドゥケーター講習会 in ドボク管理

## ESD

ESDという言葉をご存じでしょうか。

ESDとは「Education for Sustainable Development」の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。ESDは、世界の環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動とされています。



2014年のノーベル平和賞を受賞した女子教育の権利を訴えるマララ・ユフスザイさん、児童労働の撲滅をめざすカイラシュ・サティアルティさんの取り組みは、象徴的な活動といえるのではないのでしょうか。

受賞スピーチで、兩人ともに「教育」の意義について熱く語られていたことは、記憶に新しいところですが。2014年11月には、「国連持続可能な開発のための教育の10年」の最終年という節目の年を迎え、ESDに関するユネスコ世界会議が岡山市・名古屋市中で開催されました。

会議では、これまでのESDの振り返りとともに、ESDのさらなる強化と拡大を呼びかける「あいち・なごや宣言」が全会一致で採択されました。企業としても持続可能な開発とその教育の重要性が高まっています。

## プロジェクトWET エドゥケーター講習会 in ドボク管理

当社のESDの活動として、第23号でご紹介した地域の水環境問題をテーマとした環境学習会「プロジェクトWET」の主催やエコユニット活動など、社員の環境意識向上に取り組んで参りました。昨年は、ESD節目の年ということもあり、地域の指導者育成を目的として、社内のみならず、地域の学生や教員を含めて「プロジェクトWETエドゥケーター講習会inドボク管理」を



海の生物圏の学習

10月に開催しました。今回は、この講習会の内容をご紹介します。講習会は、指導者育成人数の制限や会場の都合上、20名程度を対象とし、北見工業大学工学部の学生11名、教員1名、一般4名、当社から講師1名・スタッフ2名の合計19名での開催になりました。



外来種について学ぶ

## アイスブレイク・水環境

まずは、すべての参加者が気軽に話せるようブレインストーミングについて説明しました。また、第23号でご紹介した自己紹介を兼ねた「青い惑星」や「驚異の旅」というアクティビティを体験し、水環境や水循環などについて話し合いました。

## 座学・グループワーク

スライドにより、プロジェクトWETの概要や水と地球構造や生命、水資源・水管理、体験学習における「気づき」の重要性などについて座学を行いました。その後、ランダムに設定したグループに分かれ、「SWOT分析を用いたグループワーク」や「受講者が指導者として実施するピアティーチング」の準備を行いました。



表面張力の実験

プロジェクトWET (Water Education for Teachers)は、水や水資源に対する認識・知識・理解を深め責任感を促すことを目標として米国で開発された「水」に関する教育プログラムです。「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(平成23年法律第67号)第11条第1項に規定する人材認定等事業に登録されています。(主務大臣:環境大臣、文部科学大臣、国土交通大臣)

## 防災・水の性質

準備・昼食を挟んで、「マイ・ハザードマップ」というアクティビティにより、自分の住む町の防災について考えました。これは、普段利用する通学路を地図上に記載し、フィルム状の防災マップを重ねるアレンジやカードで意見・アイデアをとりまとめる手法(KJ法)を用いて、ハザードマップを作成しました。また、水の凝集や凝着効果に着眼したアクティビティでは、表面張力や水の流れについて考えました。



社長の開会挨拶



ハザードマップ

## ピアティーチング

ピアティーチングでは、グループワークで準備したアクティビティを3グループに分かれて実施しました。「外来種の侵入経過を学ぶアクティビティ」や「自助・公助・共助を考えるアクティビティ」、「海の生物をテーマにしたアクティビティ」を行って頂きました。いずれのグループでも笑いあり、学びありのとても工夫された内容でした。単純に体験しただけではなく、自身が指導者となって、「導入→展開→まとめ」の流れや関連性をしっかり持たせ、「気づき」を促していました。

## ふりかえり

「良かった点」、「こうすればより良くなる点」を題材として、ふりかえりを行いました。初開催にもかかわらず、活発な意見がたくさん出て賑やかで内容のある講習会になりました。

今回の講習会で、16名(講師・スタッフを除く)全員がエドゥケーターとして認定されました。受講者からは、「今後の研究に生かしたい」「教員志望なので、生徒たちに教えたい」などの声が寄せられ、指導者育成に一定の効果があったと考えております。今後もこうした活動を通じ地域の一企業として、Think Globally、Act Locally(地球規模で考え、足元から行動せよ)の精神で、地域の課題解決に向けた取り組みに寄与していきたいと考えております。

注意:プロジェクトWETのアクティビティ(活動)を使用できるのはプロジェクトWETジャパン認定のファシリテーターが指導する講習会を受講され、エドゥケーター以上の資格を得られた方のみとなっております。日本では、公益財団法人河川財団が、プロジェクトWETジャパンとして活動しています。興味のある方は、右記URLをご参照下さい。 <http://www.project-wet.jp/>